

- 2016年・記録会は8月14日(日)HLGとPLGともグリーンパークの予定です。
- 2016年・記録会は9月18日(日)HLGとPLGとも吉見公園の予定です。

2016年もいよいよ後半に入りますが、まだ夏なので田んぼはダメでじりじりと待機です。ランチャーズの夏期の記録会はグリーンパークと決まっています。しかし、狭い公園だからとストレスを感じるより、久しぶりに会えるメンバーとのビールを飲みながらのおしゃべりもイイものです。1年ぶりに来てみるとグリーンパークのメンバーも高齢化で、飛行機屋さんが減ってきたのは寂しい。30程前、この公園が出来た頃の頃は樹木も低く回収が楽だったのですが、現在では樹も大きくなって公園が狭く感じます。しかし、ここを根拠地に活躍するヒコーキ屋も頑張ってくれていて、嬉しい事にスケール機仲間も増えて公園ヒコーキらしくなってきました。スケール機は立木に引っかかると壊れるので要注意です。スケール機はそこそこ飛んでくれれば十分ですので、飛びすぎないように注意しましょう。そんな事考えながら、公園でのお茶も楽しい物です。但し、高齢化が進みすぎて、お茶だけになっても困りますが・・・

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 記録会報告 | ①②2016年6月HLG/PLG記録会報告 |
| | ③④2016年7月HLG/PLG記録会報告、 |
| お知らせ | ⑤2016年まったけ大会案内 ⑥平成28年FF小型機旭大会案内 |
| | ⑦平成28年FF日本選手権大会案内 |
| FFサロン | |
| 雑談天国 | ⑧極西日本・明治の戦い 平尾 |
| ざっがき | ⑨ひばりのトスカ他 |

◆2016年6月記録会報告(HLG/PLG)

6月HLG記録会報告

①.....平尾

今年初めてのグリーンパークなので、道中全てが新鮮でした。30年近く通っている道ですが、狭い八日市街道も千葉に住む身には都会だなーとの思いでキョロキョロです。公園には早めの8時前に着いたので、まだガラガラでした。今回、石井英夫さんに久しぶりにお会いして、まず挨拶の後おしゃべりです。その後あたふたと朝飯を取って、久しぶりの公園の芝生に出動しました。ここは夏でも木陰があるので身体には楽ですし、公園もきれいに整備されている感じがイイ。毎年ここでやる記録会では、日頃は会えない古手メンバーの健康状態や、老けぐわい気になります。そして新人に会えるのが楽しみです。

毎年やる夏のHLG-Bは小さいのでそれなりに難しく、その分年寄りにもチャンスがあるのですが、80才近くなるこの頃では、そのコノメリットも消え失せ最下位争いです。さて残念ながら、今回は誰からも記録会の報告がなく、やむなく思い出しながらの報告です。

競技が始まってみると全体の出だしが良くない。パワーの井村選手と阿部選手は苦戦しているし、狙っている中禮選手は安定しているが、いま1つマックスが出ない。その中で唯1人稲葉選手が好調。

後半になって今関選手、星野選手がマックスを続け始めた。結局、フライオフには稲葉、今関、星野、中禮の4選手が残ったのは立派。そして4選手によるフライオフは90秒マックスで2投始まった。結局は小差で、稲葉選手が優勝、2位には野球投げの中禮選手が来た。そして地元の今関、星野の両選手が3、4位となった。その他に久しぶりに新品には見えない新人が1人増えたが、なかなかの実力である。

最近の記録会で感じる事の1つは、昔と違って勝負が終わると皆さん、昼飯も食べずにさっさと帰ってしまうので、なんとなく寂しい。昔はダラダラと残っていた人達は何処に行ってしまったのだろう。時代ですかね。我々も年を取ったので体力が無く、そさくさと帰ってしまうのがいけないのかな。

6月PLG記録 6月26日グリーンパーク 晴、気温25度 風 1m～3m 40秒マックス5/10投															
NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	稲葉 元	40	36	40	40	40	40	-	-	-	-	200	84		284
2	中禮 一彦	34	40	33	23	31	40	40	40	40	-	200	79		279
3	今関 健一	15	16	18	40	40	40	40	26	31	40	200	53		253
4	星野 聡	27	29	40	37	40	40	26	26	40	40	200	30		230
5	井村 真三	26	21	28	26	25	40	40	40	24	40	188			188
6	阿部 雅幸	24	30	31	36	27	33	31	40	35	40	184			184
7	岡村 貞二	40	23	24	26	40	24	19	40	29	33	182			182
8	大八木重信	26	28	14	40	32	23	26	35	23	40	175			175
9	菅野 俊行	22	25	19	22	19	40	20	26	40	40	171			171
10	相沢 泰男	19	22	22	25	28	22	19	30	40	37	160			160
11	吉岡潤一郎	27	31	17	23	23	26	36	24	28	31	153			153
12	平尾 寿康	12	15	20	26	22	17	25	19	33	22	128			128

6月PLG記録会報告

④.....工藤

雨のため1週遅れでランチャーズ記録会を行ないました。今回は、何年ぶりでしょうか16名の参加者で、ハンドランチの参加者を上回り、盛り上がりのある記録会となりました。天気予報も悪くなく、風は1メートルから3メートルというところで、サーマルも時折現れます。序盤からMAXの連発で、10の5では16名全員フライオフかと思われましたが、なぜかベテラン組3名(河田・吉本・工藤)がフライオフ進出なりませんでしたが、8名の選手が5MAXを記録しフライオフ進出しました。中でも尾羽林選手は、1投目39秒でしたが、以後5連続MAXでフライオフ一番乗りです。岡田選手・原選手は7投目、八木(博)選手、八木(喜)選手、大堰選手は8投目と余裕のフライオフ進出。三辺選手9投目、木下選手は10投目で苦労しながら5MAXを記録しフライオフ進出。

フライオフは90秒MAX2投の勝負とし、各選手気流読みに入ります。1投目で尾羽林選手が53秒をマークしリード。他選手は40秒前後で苦戦。尾羽林選手初優勝かと思われましたが、2投目でデサーマル読みの名手(?)原選手は58秒をマークしてリード。尾羽林選手は2投目45秒でまたも優勝が逃げていきました。原選手優勝かと思われたとき、木下選手が見事にサーマルとらえて63秒。2015年11月以来2度目の優勝でした。木下選手は10投目で5MAXを記録しフライオフ進出したうえ、フライオフも最後に発射して63秒と、諦めない姿勢が今回の優勝につながったのかもしれませんが。木下選手、おめでとうございます。工藤

6月HLG記録 6月26日グリーンパーク 晴気温25度 風 1m～2m 40秒マックス5/10投														
NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	合計
1	木下 龍三	29	40	40	10	40	19	34	29	40	40	200	41/63	263
2	原 一博	31	40	40	40	35	40	40	-	-	-	200	35/58	258
3	尾羽林邦夫	39	40	40	40	40	40	-	-	-	-	200	53/45	253
4	アントニオ大堤	32	33	40	40	38	40	40	40	-	-	200	39/53	253
5	岡田 光正	40	40	40	30	34	40	40	-	-	-	200	31/51	251
6	三辺 雄司	27	40	40	39	36	40	40	31	40	-	200	13/45	245
7	八木 博典	36	40	33	40	19	40	40	40	-	-	200	39/44	244
8	八木喜久江	40	26	39	40	14	40	40	40	-	-	200	39/37	239
9	工藤 陽久	40	40	40	29	40	39	39	36	27	33	199		199
10	吉本 凌一	30	36	40	40	40	33	40	22	30	34	196		196
11	河田 健	09	29	37	28	40	23	02	40	-	-	174		174
12	関口 正哉	40	40	32	09	16	17	19	20	08	39	171		171
13	勝山 彊	22	19	17	40	33	29	40	-	-	-	164		164

14	秋山 茂雄	25	35	25	24	20	17	26	40	27	16	153	153
15	水車 進	20	15	23	36	16	22	35	24	18	34	152	152
16	寺園 桜華	12	24	40	21	20	18	25	22	28	15	139	139

◆2016年7月記録会報告(HLG/PLG)

7月HLG記録会報告

①……赤星、平尾

今年2度目のグリーンパークですが、公園には8時前に着いたので人はまばらです。しかし、町田の石井さんは既に着いていて、夏でも頑張っているようで嬉しい。まず陣取りをしてから、いつものように朝飯です。格別変わったことはないのですが、私は公園や野原での朝飯が大好きで、毎回楽しみです。朝飯はいつもあちこち捜して気に入ったサンドイッチか、自分で作るバスケットパンのジャガイモサンドイッチに、いつものドリップコーヒーを入れてかぶりつきます。まず、コーヒーの香りで元気付いて、病めるランチャーズがボチボチと挨拶を交わしていると、いつの間にか大勢のメンバーが揃っています。その内の若手(60才以下なら若手)は、来る早々に練習に駆けていくので嫌いです。さて、この日の気象条件は良さそうで、これなら無事に記録会が出来そうです。

* 赤星レポート

今日はランチャーズ記録会7月に参加してきました。訳あって実家からグリーンパークへ出勤したので、通勤時間は朝でも50分くらいかかります。日の出時刻の少し前にいつもの駐車場に車を停めて、大荷物で公園へ。東側の木陰に陣取ってピットを作りますが、芝生の上ではすでにいつものようにOB林さんが飛ばしています。いったい何時に家を出ているのでしょうか？

皆さんが集まり始めた頃には風も弱まって、場外の心配はなさそうです。しかし、空気の上下動はほとんどなく、少しあってもデサーマルが支配的。もともと重くて浮きの悪い私の機体は、こんな気流ではどう頑張っても勝ち目がありません。記録会が始まって強いサーマルは現れません。少しでも高さで稼ごうと力んだ私は、1投目引っ掛け、2投目スッポ抜けと立て続けに失投。もう、テンションがた落ちです。

しかし、ランチャーズは10投5採なので、まだ巻き返せると気を取り直します。3投目からはまずまずの投げができたにもかかわらず、36・37・36・37秒ともう少しMAXに届きません。その後、8投目でようやく1つMAXが取れましたが、この辺が私のBサイズの実力ということでしょう。そろそろ新しい機体を作ろかな？いいパイプがないので、古い機体を壊して移植かな？優勝は唯一5MAXフルマークを達成した中0さん。あの軽い機体をオーバーハンドであそこまで上げられたら敵いません。優勝オメデトウゴザイマス。公園の東側は拡張工事中。グリーンパークは中島飛行機の工場跡地に作られているので、となりの都営住宅に戦時中の空襲の跡が残っているとかで、取り壊しに反対する意見があるとニュースか何かで言っていました。今、拡張工事をしているところには、サーマルに乗った機体がよく飛び込んで、回収に苦労しましたね。

7月HLG記録		7月17日グリーンパーク										気温25度曇り		風1m~2m		40秒マックス5/10投	
NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計		
1	中禮 一彦	40	40	25	40	22	30	40	39	32	40	200			200		
2	稲葉 元	40	40	40	15	30	23	36	37	38	40	198			198		
3	阿部 雅幸	40	34	33	32	31	37	40	40	36	40	197			197		
4	相沢 泰男	32	40	33	40	40	30	05	34	27	32	187			187		
5	赤星 和芳	11	05	36	37	36	37	34	26	40	36	186			186		
6	小林 雅夫	28	29	27	23	27	25	40	40	18	35	172			172		
7	池田 昇	09	27	37	23	30	29	34	30	40	26	171			171		
8	今関 健一	25	32	28	18	18	17	40	25	27	39	166			166		
9	星野 聡	25	38	29	20	27	23	25	14	34	30	158			158		
10	菅野 俊行	27	32	26	21	26	40	05	24	28	21	153			153		
11	岡村 貞二	21	36	25	29	18	21	22	21	23	13	135			135		

12	宍戸 輝夫	15	23	28	17	11	11	23	17	21	35	130	130
13	吉岡潤一郎	25	19	21	21	22	26	27	24	20	25	127	127
14	平尾 寿康	15	07	13	31	15	26	27	22	18	18	124	124
15	大八木重信	15	01	01	26	14	17	-	-	-	-	73	73

7月PLG記録会報告

④.....工藤

今日は1mから3mの風で、記録会の途中から風が強まるとの天気予報でした。なんとか良い条件での記録会ができることを希望しながら、各選手とも練習に励んでいます。9時の記録会開始時はほぼ無風で、小さなサーマルが出る条件でした。PLGの記録表を見るとほとんどがMAXで、5投終了時点で工藤、八木(博)選手、木下選手、八木(喜)選手、河田選手の5選手が5連続MAXでフライオフ進出。

6投目で三辺選手、尾羽林選手、吉本選手が5MAXを記録。水車(スイシャ)選手、岡田選手が10投目で5MAXを記録し、13選手出場で、10人がフライオフ進出となりました。各選手の技術とサーマル読みが向上したためでしょうか、特に今日の気象条件では40秒MAXはほぼ100%クリアできそうでした。

MAXの秒数とフライオフ進出基準を見直さなければならないのかもしれませんが(45秒MAXか6/10ですかね)。記録表を見ますと、87投中MAXは57個で65.5%のMAX取得率、57MAXを出場13選手で割り返すと1人あたり平均4.4個で素晴らしい記録会となりました。第1フライオフは、80秒MAX・2投に決定。各選手ともフライオフ開始後すぐに打ち上げ、40秒台が多く、工藤が60秒でリード。2投目は慎重となり、サーマル読みをしますが、悲しいかなサーマルが読めません。そんな中、水車選手が80秒をクリア。他の選手はサーマルを捕らえられず終了しましたが、河田選手・工藤が最後までサーマルを読み、河田選手は待ち切れず発射し33秒、工藤はサーマルを読むふりをして、1分前に発射したところサーマルを捕らえて、水車選手に続き80秒をクリア。結局、水車選手、工藤が80秒をクリアして第2フライオフ進出。第2フライオフは無制限1投の勝負とし、水車選手55秒、工藤はサーマルを捕らえ86秒で工藤の優勝となりました。多数の出場者で、素晴らしい気流の中での記録会でした。工藤

7月HLG記録 7月17日グリーンパーク 気温25度曇り 風1m~2m 40秒マックス5/10投

NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	工藤 陽久	40	40	40	40	40						200	80	86	366
2	水車 進	40	40	40	15	25	40	30	05	25	40	200	80	55	335
3	八木 博典	40	40	40	40	40		-	-	-	-	200	65		265
4	岡田 光正	40	40	38	40	40	31	26	30	32	40	200	54		254
5	木下 龍三	40	40	40	40	40			-	-	-	200	52		252
5	三辺 雄司	40	40	40	40	36	40				-	200	52		252
7	尾羽林邦夫	40	40	40	40	39	40			-	-	200	47		247
8	八木喜久江	40	40	40	40	40				-	-	200	46		246
9	河田 健	40	40	40	40	40						200	41		241
10	吉本 凌一	40	40	34	40	40	40					200	39		239
11	秋山 茂雄	35	40	34	40	37	38	07	38	40	32	196			196
12	原 一博	07	14	40	07	40	35	35	40	40	15	195			195
13	関口 正哉	10	13	14	06	35	19	33	36	36	39	178			178

お知らせ

■2016年たったけ大会案内

開催日時	2016年10月2日(日曜日)、
場 所	三重県鈴鹿市池田町タンボ
受 付	7時30分~8時15分、ミーティング8時15分~8時30分、競技8時45分~11時45

参加費	12時～フライオフ、但し進行状況によって変更する場合がある。 3000円、中学生以下無料、2種目エントリーも参加費は変わらず、但し、ダブル入賞の副賞は上位成績の種目のみとする。
種目	①中型混合級(国内級、ミニ国際級グライダー・ゴム・エンジン機+電動機) ※電動機:F1Sモーターラン10秒、F1Qモーターラン7秒 ②小型混合級(スパン30インチ以下、ゴム10g以下のゴム動力機何でも可) ③HLG級(A・B)
競技開始 競技方法	AM8時45分～11時45分、あとフライオフ ・中型混合級は2分マックス、5ラウンド制、・小型混合級は1分マックス第1Rは最大3回まで飛行が可能。1分をクリアーした選手は2分マックスの第2Rに進む。2Rは2回まで飛行が可能。2分をクリアーした選手はフライオフへ進む ・HLG級は1分マックス10ラウンドの上位5ラウンド制
その他	・第三者に被害を与えた場合、競技者の自己責任とする。 ・気象条件等により、ラウンド数、マックスタイムを変更する場合がある。 ・デサマライザーの火縄落下は落下防止装置付、無しは失格 ・ご不明な点があれば、各種目の実行委員にお尋ねください。
実行委員	・中型混合級 吉川強、佐藤宏彦、吉田潤、・小型混合級 小黒雅元、鈴木勝 ・HLG級 掛山吉行

■平成28年フリーフライト小型機旭大会案内

1. 期 日	平成28年11月4日(金)、雨天の場合は中止
2. 会 場	千葉県旭市(日本選手権開催場所通称干潟)
3. 主 催	フリーフライト委員会
4. 大会委員長	フリーフライト委員長 和田光信
5. 競技役員他	競技委員長 和田光信、競技役員 FF委員
6. 種 目	電動FF、HLG-A、HLG-B、F1G、F1H、F1J、ライトプレーン。 ただし、種目の参加者が3名に満たない場合は混合。
7. 参加 資格	当日有効の模型飛行士登録者
8. 申込 方法	11月4日(金)競技会場(肥料小屋前)7:00～7:30受付
9. 参加 費	2,000円(1種目、2種目以上は3,000円)、中学生以下無料
10. 競技規定	FAIスポーツ規定に準拠。各種目ともラウンド制として5R競技を行い、合計タイムで順位を決定する。同タイムの場合は決勝 飛行を行う。 電動機規格はF1Sモーターラン10秒、F1Q7秒とし最大計測時間は2分とする。 HLGは最大計測時間60秒飛行を1すに2回行い、飛行時間の長い方をそのRの公式飛行とする。LPは最大計測時間は1分とする。LPの特別規則:FF国内級規定15に特別規則を付加する。①動力ゴムの重量5g以下、②折畳み及び可変機構を伴わない空転プロペラ使用。 状況によりラウンドの最大計測時間、モーターランを変更することがある。
11. 競技 時間	7時30分開会式。8時ラウンド制による競技開始。13時30分決勝飛行開始。 ラウンドの時間等の詳細については競技会当日に発表する。
12. 保安・損害賠償	人畜、土地、建物その他の物件に競技その他により損害を与え賠償が必要な場合は、当該者が全額を負担する。 機体検査・随時検査を行う。不合格の場合、記録は全て無効。選手の責務・選手は計時員の計時員として計時に協力する。
13. 連 絡 先	各団体のFF委員又はFF委員会事務局 田久保ff@iinkai.ss.tt.ts.st

■平成28年フリーフライト国際級日本選手権競技会案内

1. 主催 日本模型航空連盟 公認(一財)日本航空協会
2. 期 日 平成28年11月4日(金)、11月5日(土)、6日(日)
3. 会場 千葉県旭市万才田んぼ
4. 種目 フリーフライトF1A, F1B, F1C、
5. 参加資格 日本国籍を有する選手権期間中有効の模型飛行士登録者
6. 選手権委員長 日本模型航空連盟会長 安田邦男 陪審員 日本模型航空連盟金川 茂
7. 競技委員長 FF委員長 和田光信、副委員長F1A 河合 良、F1B 谷塚 正実
F1C 西澤 実、競技役員 日本模型航空連盟会員
8. 申込方法 参加申込書に必要事項(参加種目氏名住所電話番号、模型飛行士番号と有効期限、宿泊同伴者の有無)を記入し期日までに参加費を振込むこと。専用振替用紙がない場合、郵便局振替用紙を入手して必要事項記入し申し込む。
振替口座番号0160-6-59119、加入者名 日本模型航空連盟
いったん納入した参加費は理由の如何を問わず返却しない。
9. 締切日 平成28年(2016年)9月9日(金)(当日消印有効)
10. 参加費 22,000円(1種目)
11. 宿泊 役員以外は宿泊は自由、但し11月4日の受付開会式・ミーティングに出席する。
12. 幹旋 宿舎 いいおか潮騒ホテル TEL 0479-85-6677、申込書に宿舎幹旋の可否を記載する(1泊につき11月4日、5日共に8,700円)。2泊の場合は申込用紙に「宿泊費17,400円」を記載する。申込後の宿泊キャンセルは不可。選手と同様同伴者の宿泊も幹旋する。(1泊8,700円)、この場合同伴者を含めた合計金額を記載する。
13. 食事 幹旋する宿舎の夕食は宿泊費に含む。(但し、朝昼食は含まない)。
14. 参加 受理 参加申込会員に参加受理書を送付する。選手は受付時間内に本部に参加受理書、機体仕様書を提出しする。
15. 受付 11月4日15時～17時までに必要書類を提出する。時間内に到着出来ない場合は予め連絡する。又、機体検査等を希望する選手は受付時に申し出ること。
16. 機体 検査 原則として競技前の機体検査は行わない。但し、F1Aは曳航索、F1Bはゴム重量、F1Cは機体重量の検査を行う事がある。選手が希望した場合は機体検査を行う。競技中、抜き取り検査を行う場合がある。この検査で不合格の場合、それ以前の記録は全て無効となる。
17. 選手の責務
 1. 選手は他種目の役員をする。出来ない場合は代理人を立てる。役員の業務を怠った場合、当該選手の競技記録の一部または全部を取り消すことがある。
 2. 異議申立は競技委員長に文書で行う。但し、競技中に計時員や役員の決定等の疑義や、競技中発生 of 損失不法行為で速やかな処理が必要な場合は、口頭で競技委員長に行う事が出来る。全ての異議には供託金30,000円を添える事。供託金は異議が認められた場合は返却する。
 1. 機体回収に4輪自動車の使用は不可。使用した場合当該ラウンドの記録を抹消する。オートバイ使用時はヘルメットの着用など道交法に基づくこと。
18. 競技 方法
 1. 競技は2016年有効のFAIスポーツ規定に準拠した公式飛行と決勝飛行を行い選手権者及び順位を決定する。状況により競技を延期または中止する事がある。
 2. 競技を開始した場合は原則として当日中に競技を終了させる。
 3. フライオフのピットは抽選により決定する。
19. 日程 11月4日受付:15:00、開会式:17:00、夕食:18:00～
11月5日F1B競技:7:00～、11月6日F1A, F1C競技:7:00～、閉会式:15:00
20. ラウンド 1ラウンド、7:00～7:55、2ラウンド、8:00～8:55、3ラウンド、9:00～9:55
4ラウンド、10:00～10:55、5ラウンド、11:00～11:55、FO1、13:00～13:10

FO2、14:00～14:10

- 21.損害 賠償 人畜、土地、建物他に対し競技他により損害を与え賠償が必要な場合、当該選手が全額を負担する。
- 22.世界選手権候補 平成27年度、28年度選手権の持点を合計し、上位より順番に次回世界選手権の日本チームの選手となる資格が与えられる。
1位－12点、2位－9点、3位－7点、4位－6点、5位－5点、6位－4点、
7位－3点、8位－2点、9位－1点
- 連絡先 FF委員事務局田久保潤一 090-3227-1744
FF委員会長 和田光信 090-3136-4276

FF文化サロン

⑬今回はお休みです。……平尾

★ 雑談天国

★ 極西日本・明治の戦い

⑧……平尾

2. 19世紀の帝国主義

日清戦争の起こった19世紀末、世界は帝国主義時代の真ただ中であつた。欧米の強国がアジアやアフリカの後進地域を保護国化あるいは直轄支配して、植民地とするのが当たり前の時代で、それが現代と根本的に違っています。1895年日清戦争から10年後は日露戦争で、さらに20年後の1914年の第一次世界大戦が始まった頃は、世界の面積の半分が「6大強国」の植民地になっていました。「6大強国」の中で英露仏の3国が抜きんでており、この3国の植民地だけで合計の約95%を占めていました。

日本も「6大強国」の一つに数えられてましたが、英露仏と比較すれば植民地の面積はごくわずかでした。全世界の3分の2が、そうした諸国の植民地か半植民地だったのです。



ペリーが1853年日本に来航し、1858年に日米修好通商条約が結ばれ日本は開国しました。それから10年後の1868年が明治維新です。その当時、列強がアジアのどこまで進出していたかを地図で見ると、インドか

らフィリピンまでの東南アジア地域と中国の一部までが、植民地化が進行していました。その時アジアで残っていた独立国は日中韓だけでした。当時は貿易問題が戦争を起こす理由になったのです。白人国家だけが独立国で、他国は勝手に略奪して良いと考えたのが19世紀の帝国主義だったのです。しかし、当時はまだ清国は戦争を仕掛ける相手ではあっても、植民地化の対象と思われてなかったのです。

その理由は中国アロー戦争時の局地戦で大沽砲台からの砲撃で、英仏同盟軍艦隊が撃破されたことがあったからです。植民地化にお金がかかりすぎると対象から外されたのです。言い換えれば、当時の日中韓3カ国は、政府が機能し続けている限り植民地化を免れられたのです。

2. 遅れてきたロシアの南下政策

ロシアが南下政策を開始したのは帝政ロシア時代で、1853年のクリミア戦争がその嚆矢でした。クリミア戦争では欧州列強の支援を受けたオスマン帝国の抵抗により、ロシアは一度は不凍港獲得を断念します。しかし1877年に再びオスマン帝国と露土戦争で勝利するものの、ここでも欧州列強の介入によって大幅な譲歩を余儀なくされます。結局、ロシアはオスマン・トルコとの2度にわたる戦争でこの方面の南下を取りやめました。そこで、極東の清がひどく弱体化している点に着目します。そしてロシアはアロー戦争仲介の代償ということで、ウスリー河以東アムール川以南の地域を要求し清に割譲させます。これでロシアは不凍港・ウラジオストクを得ます。更にロシアは船体修理を名目に、付近の土地の租借権や警備権をも要求したのですが、ここでもイギリスが干渉したので引き下がりました。しかし、ロシアは1891年にシベリア鉄道建設などで、再度中国進出を開始します。当然ながら、ロシアの南下は日本の脅威となりましたが、イギリスもこの南下を警戒するのです。その後ロシアは、ウラジオストク保護の為に朝鮮半島制圧を意図しました。

中国で「扶清滅洋」を叫ぶ宗教的秘密結社義和拳教が、排外運動を展開しました。その結果、北京の公使館員や居留民保護と称して8ヶ国連合軍が北京に進出し、その中で日本軍が最大の兵力8000人を投入しました。北京は連合軍に占領され、北京議定書による賠償金と、北京周辺の護衛は外国部隊が任務にあたることになりました。日本は北京と天津に清国駐屯軍を設置し、これが後日中戦争の主力部隊となりました。ロシアも満州を事実上占領します。しかし、1902年の日英同盟によってロシアはやむなく満州から撤兵を約束しましたが、日本を軽視し兵力の撤兵を行わなかったのです。そこで日本国内で対ロ強硬論が噴出し、韓国、満州の利益に関する日露交渉が決裂し、1904年に日露戦争が勃発します。こうしたロシアの南下政策の歴史を見ると、その時々によって最も「脆弱」だとみなしうる国を見定め南下政策を実行してきました。上述した通り最初はオスマントルコ帝国を狙い、欧州列強がこれに反対すると、末期をむかえていた清、朝鮮と、小国の日本を南下ルートとして選びます。しかし、日露戦争に敗れて小アジアだけでなく極東でも南進を阻まれると、今度はバルカン半島を目指しました。

「脆弱な部分を狙う」南下政策は、現在の中国の海洋進出との類似性を感じずにはられません。

3. 明治時代の朝鮮

明治政府は欧米諸国が朝鮮半島に進出することを警戒し、鎖国政策の李氏朝鮮に強く開国を迫りました。当時、朝鮮の実権は国王の父・大院君が握っていて、「鎖国攘夷政策」では、わが国も「攘夷」の対象とされていました。しかし李氏朝鮮はあまりにも弱体で、鎖国してはいずれ欧米の植民地となる恐れがあったのです。それを憂慮した日本は、朝鮮半島をロシアから守らなければ自国の存続はありえないと考え、朝鮮を近代国家として自立させての同盟化を協議しました。しかし、中国と朝鮮は歴史的に日本を小国と侮ってきた事実があるので、同盟などあり得ず挫折しました。要するに中国や韓国の「反日」は戦後始まったものではなく、この時代から日本を毛嫌いしていたのです。また、両国が「植民地化」の危機を日本ほど深刻に考えてなかったのが、明治政府は「アジアの団結」が実現不可能なことを思い知りました。そこで日本はアジアの団結に頼るのではなく、日本一国のみで欧米諸国と対等になる事で、自国を欧米の侵略から守る考えになりました。当時の日本の立場は、座して植民地になるか、それとも軍事力を持ち帝国主義の仲間入りをして植民地を持つつかし道はなかったのです。

李氏朝鮮は1637年に清の冊封国となっていました。その後、19世紀後半に帝国主義政策が東アジアに及ぶと、江華島事件を契機として1876年(明治9年)に日本との日朝修好条規を始め、アメリカやフランスなどの欧米諸国と不平等条約を結ぶことになったのです。この情勢を受け、朝鮮国内では冊封体制を脱して近代化すべきという者と、清国との関係を維持すべきだという者(事大党)とが対立します。両

派の暗闘から事変が起こり、公使館保護を名目とする日本と、朝鮮を属国する清は鎮圧を理由として出兵し、日清の対立は決定的となったのです。李氏朝鮮では1873年に大院君が失脚し、国王(高宗)と皇后(閔妃[びんび])が国王親政の名のもとに一族で実権を握りました。後に初代内閣総理大臣となった金弘集は明治13年に修信使として来日し、開国の必要性を認識して、国王に日朝清が連携すべきと進言しました。それが採用され朝鮮もようやく開国に転じたのです。翌年、朝鮮は日本から軍事顧問を招き新式の陸軍を編成するとともに、日本に大規模な使節団を派遣しました。ところが1883年、大院君のクーデターで日本公使館が焼き討ちされ、日本人軍事顧問や公使館員が多数殺害されました。更に翌年甲申事変が起き、再び多数の日本人が犠牲になったのです。この事件は日本政府の援助を過信した朝鮮開化党の軽挙に原因し、それに乗じた清の駐屯兵と朝鮮軍隊の暴動で、日本人男女四十余人が惨殺されたのです。これらの事変の後高宗も閔妃も、干渉を強くする日清両国に耐えられなくなり、猫を被っていたロシアに近づくようになったのです。

日本は朝鮮の他国依存主義に呆れ、内政改革を勧告しました。しかし、改革は清勢力の失墜を意味するので、事大党派は清の袁世凱の後援を得て強硬に反対しました。しかし、日本は追及の手を緩めず、清韓関係の廃棄と清国軍の撤退を要求しました。清の袁世凱は日本の強硬な態度を察知するや密かに韓国を脱出し引揚げました。その後も李朝は急場逃れの回答をしたが日本は納得せず、兵力を行使する旨警告し宮廷内の朝鮮兵を駆逐しました。こうして閔氏一族は逃走し、中国が策を労して韓国に戻っていた大院君が、日本の要望で政権を引受ます。復帰した大院君は直ちに清韓関係の廃棄を宣言し、清兵駆逐を日本に要請しました。この様に当時の韓国支配層は無定見だったのです。

日本は権益を確立するために、まず朝鮮から清朝の影響を排除する必要があったのです。そして1894年(明治27年)に日清戦争が勃発します。そして1895年、日本が清国に勝利し下関条約を締結しました。日本は清国に朝鮮を独立国として認めさせ、朝鮮から清に対する貢献・臣下の典礼等を廃止させました。1897年(明治30年)韓国は清の属国でなくなったので、国号を「朝鮮」から「大韓」と改め、高宗は皇帝に即位したのです。その後、冊封の象徴の迎恩門や「恥辱碑」といわれる大清皇帝功德碑を倒して独立を記念しました。このような朝鮮問題が明治全域を通じて終始重大問題とされたのは日本の国家生存に触れるためでした。日清、日露戦争も、全て朝鮮と清国を中心として引き起こされ、両国内で戦ったのに、両国の意志は全く無視されているのである。

マキアヴェッリは「君主論」で、次のような言葉を残しています。「隣国を援助する国は滅びる」「次の二つのことは、絶対に軽視してはならない。第一は忍耐と寛容をもってすれば、人間の敵意といえども溶解できるなどと思ってはならない。第二は報酬や援助を与えれば、敵対関係すらも好転させうると、思っ

4. 日清戦争 明治27年～28年(1894～1895年) ブログ・日本の戦争の歴史から

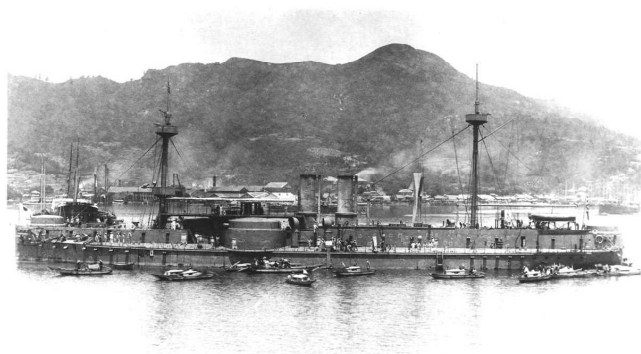
前述のように、東南アジアを次々に植民地化してきた欧米列強はさらに東進する姿勢を見せ、加えて当時、徐々に勢力を伸ばしてきたロシアが、サハリン、ウラジオストクまで南下したため、日本列島、清、朝鮮半島は西北から挟撃される状況にあった。当時の日本にとって開国後の最大の問題は隣国の清国と朝鮮にあった。そこでまず日清戦争が勃発したのです。清国には、1884年清仏戦争、1887年イギリス艦隊による朝鮮巨文島占領、露朝密約事件(ロシアと朝鮮の接近)、1891年ロシアのシベリア横断鉄道敷設開始があった。その上日本は1884年の韓国の甲申政変(日清駐留軍の武力衝突)、1886年の清の北洋艦隊・「定遠」「鎮遠」等の来航時の長崎事件が起きて、清と交戦する可能性がでてきた。

ただし当時は、海軍力で優位にある清国が日本に侵攻するとの想定でした。この頃、清朝は開戦論に傾いていたが、李鴻章は開戦には消極的であった。明治天皇も伊藤博文も慎重論であった。しかし、日英通商条約が成立し治外法権撤廃に成功し問題がなくなった。一方ロシアは1891年にシベリア鉄道建設を開始したが未完成で、戦争には介入できないと判断したのである。そして1894年7月、日本海軍は黄海上で清に奇襲攻撃をかけ北洋艦隊の戦艦1隻を沈めた。陸上でも日本陸軍が行動を開始し、清の朝鮮駐屯軍と7月29日京城南方で衝突し、清軍は大敗し潰走した。日本は宣戦布告前に奇襲攻撃を行ったのである。しかし、遂に8月1日に日清両国が宣戦布告し、清軍は平城に兵力を結集したが、9月に全軍総崩れとなって撤退し、平城の戦いは日本軍の勝利となった。

海上では9月、日本の連合艦隊が清国の北洋艦隊を捕捉し、黄海海戦で致遠などの主力艦3隻を撃沈し大勝した。日清戦争当初の戦場は朝鮮半島と黄海だったが、10月に入って日本軍が鴨緑江をわたって清国の遼東半島に侵入し旅順を占領し、このとき旅順市民を殺害して国際的に非難された。189



日本の旗艦・松島4.200トン



清国戦艦・鎮遠7.100トン

5年1月末、日本海軍は北洋艦隊の拠点・威海衛を攻撃し、陸軍も山東半島に上陸した。そして2月、北洋艦隊の水師提督丁汝昌が降伏し自決した。戦意を失った清朝政府は休戦交渉に入り、李鴻章が下関会談で伊藤博文・陸奥宗光らとの交渉に応じた。この講和会議の間に、日本は台湾併合の既成事実を作るため、台湾に付属する澎湖諸島を占領した。講和会議の結果、下関条約が成立して戦争は終結した。日本は賠償金と遼東半島・台湾・澎湖諸島の割譲等十分な成果を得た。この時清の動員数60万人、死傷者3,500人、日本は動員数25万人、死傷者1,400人となっている。この戦いは日本にとって最初の近代戦体験で、その勝利により大陸侵出の足がかりをつかみ、更に清国からの2億両の賠償金は、国内の製鉄業の育成、金本位制の実施など資本主義体制を確立させることに大きく寄与した。こうして日本はアジアの強国として台頭する第一歩となったが、それは東アジアに権益を有するヨーロッパ諸国を強く刺激し、ロシア・フランス・ドイツによる三国干渉によって遼東半島は還付させられた。この帝国主義時代に行われた日清戦争

は、清の威信失墜など東アジア情勢を激変させただけでなく、日清朝鮮の三国に大きな影響を与えた。日本は、大規模な対外戦争をはじめて経験することで「国民国家」に脱皮し、この戦争を転機に経済が飛躍した。また戦後、国内では明治政府は藩閥と民党側が提携するなどし、清の賠償金などを元に積極的な国家運営に転換した。そして懸案であった産業政策や金融制度や税制体系など以後の政策制度の原型が作られることとなる。

しかし、植民地争いを繰り返してきた白人の国々は、まだ日本を同等の強国とはみなしてなかったのです。その為日本は、ヨーロッパ列強の東アジアへの侵略をめぐる様々な駆け引きにさらされる事になりました。とはいえ、当時の日本はイギリス、アメリカ両国とはおおむね友好的な関係でした。清国が下関条約によって朝鮮に対する宗主権を放棄したことによって、朝鮮は近代的な主権国家として自立することになった。しかし、清に替わって日本とロシアが朝鮮の利権を巡っての対立が表面化することとなる。

その対立が1895年、親ロシアの朝鮮王妃閔妃を日本の送った暗殺団による宮中で殺害する閔妃暗殺事件を起こした。この強引な日本の介入は列強の反発を買い、ロシアの侵出が顕著となる。これによって日本では「朝鮮は日本の生命線だ」という意識が強まり、この後ロシアの排除を目指して日露戦争へとつながっていくのである。

* 清国北洋艦隊司令官・丁汝昌

1886年清の北洋艦隊の「定遠」、「鎮遠」は当時世界最大級で30.5cm砲を4門そなえ、装甲の厚さは東洋一で日本海軍にとって化け物のような巨大戦艦であった。母港威海衛から出てきた北洋艦隊が索敵中の日本の連合艦隊と遭遇した。横陣をとる北洋艦隊の旗艦「定遠」の30.5センチ砲が火を噴き、戦端が開かれた。海戦の結果、無装甲艦の多い日本連合艦隊は134発被弾して弾が船体を貫通したものの、旗艦「松島」(4000トン)など4隻の大・中破にとどまった。装甲艦を主力とする清北洋艦隊はその6倍以上の弾を被弾し、「超勇」「致遠」「経遠」など5隻が沈没し、他に6隻が大・中破、「揚威」「広甲」が擱座した。この海戦は清の武人と日本の武士の戦いでした。清軍は基本的には砲撃で勝負せずに、艦をぶつけて乗船している兵士で戦おうとしたのです。しかし、日本はイギリス留学等の知識により砲撃戦で戦ったのです。しかし、輸入した日本の軍艦は小型なので、大砲を発射すると船が転覆しそうにな

るので、もっぱら小口径砲で戦いました。一方清軍は、砲の訓練を怠り弾が当たらなかったため、勝負があったのです。それと、日本はこの時初めてイギリス製の魚雷を使いました。但し、射程が300メートルで接近発射が必要ですが、敵は船上の歩兵で戦う気ですから撃沈されたのです。要は古い考えの清国兵士と、最新の軍事技術の日本兵の戦いだったのです。

海戦後、北洋艦隊の残存艦艇が威海衛に閉じこもったため、日本が制海権を掌握した。孤立しても清の残存艦艇は健在で、旗艦「定遠」の30センチ砲などで抗戦を続けました。しかし、水雷艇による魚雷攻撃に加え、日本艦隊の艦砲および日本軍が占領した陸からの砲撃で、清側の被害が大きくなると、清の陸兵とお雇い外国人の傭兵が、北洋艦隊の丁汝昌提督に降伏を求めた。その為、それまで降伏を拒否していた丁提督は、部下を助けることを条件に降伏し服毒自決した。丁汝昌の遺体はジャンク船で後送されることとなった。それを知った日本の伊東司令長官は「丁提督ばアジアに威名をふるった北洋艦隊の司令官である。その亡骸を送るのにジャンク船を用いるとは何事か！」と一喝し、日本が没収するはずだった船に亡骸を乗せて送るよう伝えた。そして丁提督の遺体を乗せた船が出港するとき、日本艦隊は各艦半旗を掲げ整列し、旗艦「松島」から弔砲が放たれ、伊東は最敬礼で見送った。まさに武士の心意気であった。このことがロンドンタイムズで報道され、敵に対しても礼節を重んじる日本海軍の姿は世界の目を改めさせた。勝海舟は丁汝昌の自分一身と軍艦を犠牲にした采配に対し「蕭条たる海戦史の秋の野に、一点の紅花を点じた」と述べた。

5. 日露戦争 明治38年～39年(1904～1905年) ウィキペディア



中国内の勢力範囲

この図は当時の中国国内の勢力図である。見たら解るように清朝の勢力範囲は中国のほんの一部でしかない。この状態でほって置くとうどうなるか、現在の我々でも不安になる。これでは、いずれロシアに併合されてしまうと思うのが常識であろう。

日清戦争は南下するロシアを食い止めたが、この事はイギリス、アメリカ両国と日本と利害が一致していたのです。しかし、これ以後、ロシアの嫌がらせがはじまる事になります。そして日本に対しロシア、ドイツ、フランスの三国が、日本が日清戦争で得た清国の領土である遼東半島の領有権を放棄するよう求めてきたのです。応じないと戦争になるとの「脅し」で、日本はやむなく遼東半島を放棄した。さらにロシアは清国に対し日本から領土を返還させてやったと恩を着せ、遼東半島を租借という名目で手に入れました。その上に清国の領土の領有権を主張し、朝鮮半島の北に自国の軍を配備したのです。

この結果、日本の危機感はピークに達しました。そしてイギリスもこの状況を快く思わなかったのです。しかし、当時のイギリスはボーア戦争で国力が疲弊していて、ロシアを相手に戦争をする余裕はなかったのです。そこでイギリスは1900年日本と「日英同盟」を結びました。1903年8月日露交渉において、日

本側は朝鮮半島を日本、満洲をロシアの支配下に置くという妥協案をロシア側へ提案した。しかし、主戦論を主張していたロシアは利権を妨害される恐れありとして、妥協案に興味を示さなかったのです。

常識的に考えれば、強大なロシアが日本との戦争を恐れる理由は何も無かったからです。そしてロシアは日本側へ、朝鮮半島の北緯39度以北を中立地帯とし、軍事目的での利用を禁ずるという提案をしてきました。この提案は朝鮮半島が事実上ロシアの支配下となり、日本の独立も危機的になると判断しました。更にロシアがシベリア、満洲で進めている鉄道が開通すると、ロシア軍の極東への派遣が容易となるので、日本は対露開戦へ傾いたのです。そこで1904年2月、外務大臣小村寿太郎は当時のロシアの公使を外務省に呼び、国交断絶を言い渡した。さらに日本は友好国アメリカからも支援を受け、4年後の1904年にロシアに宣戦布告します。当時のロシアはイギリス・アメリカに勝るとも劣らない強国で、しかも近代的な戦争にも慣れていました。

戦争遂行には莫大な資金が必要です。しかし、当時の日本は日清戦争でも欧米に多大な借金をし

ており、資金調達が難しかった。日本銀行副総裁高橋是清は、日本の勝算を低く見る当時の国際世論の下で外貨調達に苦心した。当時、政府の戦費見積もりは4億5千万円であった。当時の日銀の保有正貨は5千2百万円であり、最低でも約1億円を外貨で調達しなければならなかった。そこで欧米で発行額1億円、期間10年据え置き最長45年、金利5%以下との条件で外債を募集した。開戦とともに日本の外債は暴落して、初回計画された1000万ポンドの外債も引き受け手が現れない状況であった。当時の世界中の投資家が日本が敗北して資金が回収できないと判断したためである。是清はイギリスで、額面100ポンドに対して発行価格を93.5ポンドまで値下げし、日本の関税収入を抵当とする等の好条件でイギリスの銀行家たちと1ヶ月以上交渉の末、ようやくロンドンでの500万ポンドの外債発行の成算を得た。しかし、結果として当初の調達金利を上回る6%での調達となった。ところが実際の応募状況はロンドンでは大盛況で募集額の約26倍、ニューヨークで3倍となり大成功の発行となった。さらに1904年鴨緑江会戦でロシアを圧倒して日本が勝利すると、国際市場で日本外債は安定した。結局日本は1904年から1907年にかけて合計6次の外債発行により、借り換え調達を含め総額1億3000万ポンド(約13億円弱)の外貨公債を発行した。この公債は第一次世界大戦の後まで残ることとなった。日本の日露戦争の戦費総額は18億2629万円とされる。

さて、開戦時の両軍の基本戦略は以下の如くであった。

* 日本側 海軍は旅順にいるロシア太平洋艦隊を殲滅ないし封鎖し、対馬海峡を抑え制海権を確保する。その後陸軍が朝鮮半島へ上陸し、在朝鮮ロシア軍を駆逐し、遼東半島へ橋頭堡を立て旅順を孤立させる。さらに満洲平野のロシア軍主力を早めに殲滅したのちに沿海州へ進撃し、ウラジオストックの攻略まで想定していた。そして海軍によるロシア太平洋艦隊の殲滅は、ヨーロッパより回航が予想されるバルチック艦隊の到着までに行う。

* ロシア側 日本の上陸を朝鮮半島南部と想定し、鴨緑江付近に軍を集結させ北上する日本軍を迎撃させる。迎撃戦で日本軍の前進を許した場合は、日本軍を引き付けながら順次ハルビンまで後退し、補給線の伸びきった日本軍を殲滅するという戦略に変える。太平洋艦隊は無理に決戦をせず、ヨーロッパ方面艦隊の増援を待つ。ただしロシア側は、この時期の開戦を想定しておらず、旅順へ回航中だった戦艦オスリャービヤが間に合わなかったなど、準備は万全と言えるものではなかった。



河を渡るロシア軍

① 開戦後の陸戦

当時は歩兵、騎兵の戦いで、大砲、機関銃、馬車はあったがまだ自動車、戦車、航空機はなかった。

陸軍本隊の1、2軍は朝鮮半島に上陸し、鴨緑江を渡って中国に攻め入り、金州・南山と速攻で遼陽、奉天に向かって進軍し、多大な犠牲を出しながらも勝利をもぎ取った。又、第3軍は遼東半島の大連に上陸し旅順を攻撃し、ロシアの旅順艦隊を撃滅した。日本軍の戦闘兵力は総員25万、ロシア軍は31万と後衛十万で、兵力はロシア軍が上であった。火力は日本が砲828門、重砲175門、機関銃256挺、



景賢ノ武城入順旅
旅順に入る日本軍

ロシアは砲1159門、重砲60門、機関銃56挺であり、火力では日本が上まわっていた。但し、この数は日本としては最新兵器を精一杯持たせて送り出した結果であるが、ロシアはまだ後方に予備があったのである。両軍とも機関銃や重火器による戦いは初めてで、過去の戦闘より犠牲が一桁多い事に驚愕する。旅順に向かう途中の南山攻撃では、一日だけで砲弾3万4千発、銃弾220万発を使い、これは開戦当時の見積りの半年分、日本の生産量の3ヶ月に当たったという。この為、日本軍は終始、弾丸が不足して攻撃を中止する場合もあった

のである。当時の日本の参謀本部は「歩兵万能主義」で、砲撃に依存しないで、「如何なる要塞陣地も強襲にて攻略し得るもの」と考えていた。日露戦争最大の難関だったロシア太平洋艦隊基地旅順軍港を護る要塞群は、それまでは存在しなかった1.5m厚のコンクリートで覆われた構造物で、防衛要寒が15ヶ所、後方防禦要寒6ヶ所、合計21ヶ所あった。しかも正確な位置図も要寒資料もなく、有名な203高地すら記入されていなかったのです。当時の日本は要寒を知らなかったのです。攻略には大型砲が必須である事も理解してなかったのです。その為旅順攻撃に必要な兵力、兵器の準備もなく、要寒攻撃の

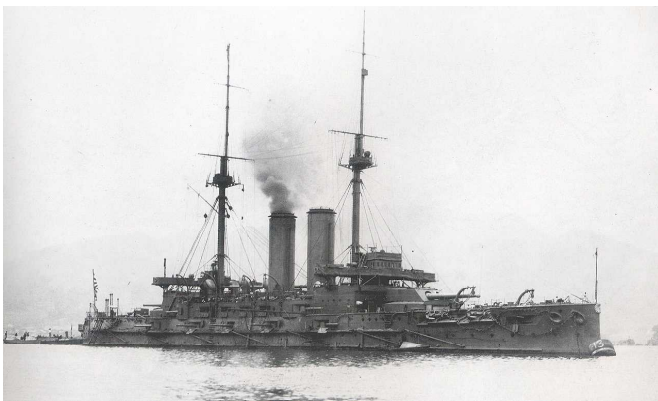


要寒内部

順序や攻撃方法の指示も無かったのです。日本軍が日露戦争で使った砲弾約100万発、銃弾2000万発と言われていますが、必要な砲銃弾数も解らず、生産が追い付かないこともあって、弾切れが続出し多くの犠牲者を出したのです。且つ、本国参謀本部は戦略を指示したら、後は現地司令部の判断で攻撃するのが常なのですが、多方面戦争の経験が無く、本国参謀本部と現地司令部の指示が、乃木希典将軍の第3軍司令部にバラバラに伝達され戦闘が混乱したのです。

ところで日本はこの戦力でなぜ勝てたのでしょうか。大部分の軍人は過去の戦いを戦うと言われているが、当時のロシアの戦争はナポレオンに勝った戦法を取っていたのである。その作戦は小戦闘を続けながら徐々に引いて、敵の兵站が伸びきり補給が追い付かなくなった所で決戦を挑んで勝つと言うのが伝統的戦法だったのです。そこで日本軍はこれを研究し、速攻で攻め続ければ勝てると思ったのです。もう1つは、当時は航空機がなかったので、砲撃した後も相手の状況が把握出来ず、その時の司令官の判断まかせで戦うしかなかったのです。さらに旅順要塞をわずか半年で攻略したことが勝利の要因であった。奉天の戦いでは、第3軍と戦うのを恐れたロシアのクロパトキン司令官の慎重すぎる判断に、日本は大いに救われ勝てたのです。この日露戦争は歩兵の戦いで移動速度が遅い上に、冬の寒冷地で体力消耗が激しく、食料も凍結して食べるのに苦労する等、まことに悲惨な戦争でした。

② 日本海海戦

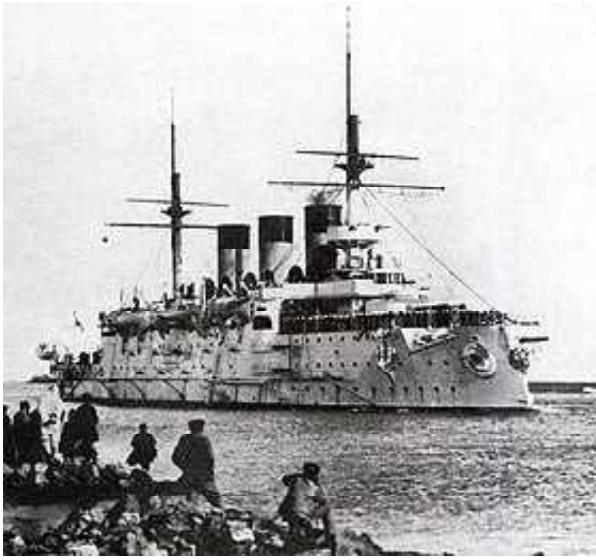


戦艦三笠15,000トン

日本の連合艦隊は1904年に黄海海戦でロシア太平洋艦隊主力の旅順艦隊と、蔚山沖海戦でウラジオストック艦隊に勝利したことで、極東の制海権を確保していた。また日本艦隊は、旅順要塞陥落の後、艦艇を一旦ドック入りさせるとともに、射撃訓練を行い命中精度を上げていた。問題はバルチック艦隊をどこで捕捉できかである。カムラン湾からウラジオストックへの航路は対馬海峡経由、津軽海峡経由、宗谷海峡経由の3箇所があり得た。しかし、3箇所すべてに戦力を分散すれば各個撃破されかねず、賭けに出ざるを得なかった。カムラン湾のロシアのバルチック

艦隊は、ウラジオストックに向けて33,340キロもの長大な距離を1904年10月から半年以上航海を続けた。初めての東洋への不安や、旅順艦隊を撃破した日本海軍への恐れは、水兵の間に蔓延していた。さらに艦隊は出航後ウラジオストックまで、各港をイギリスが押さえているので途中寄港できないことから、各艦とも石炭や大量の補給物質を積み込んでいた。当時の軍艦に大きな煙突があるのは、動力が石炭ボイラーによる蒸気機関だったからである。そのため各艦とも排水量をかなり超過して燃料を積載し、喫水線の高さ減少や復原力の低下に繋がり、日本海海戦における各戦艦の沈没の大きな要因となった。さらに長期の航海では、船底の貝やフジツボを落とすためドック入りしての作業が必要であったが、それも出来なかった。また、燃料の無煙炭も充分には十分には確保できなかったため、艦隊は黒煙を吐き艦隊位置を早めに知られることになった。そして7ヶ月に及ぶ航海の末、バルチック艦隊は日本の連合艦隊と激突した。そして2日間の海戦でバルチック艦隊はその艦艇のほとんどを失うのみならず、司令長官が捕虜になるなど壊滅的な打撃を受けた。これに対して日本の連合艦隊は喪失艦がわずか

に水雷艇3隻という、近代海戦史上例のない圧勝に終わった。その1つの原因は砲撃の命中率にある。当時の砲撃による平均的命中率は5/100と言われていたが、日本は訓練によって8/100の命中率を誇っていた。この3%の差が大きかったのだ。更に船底の貝やフジツボでロシア艦隊は11ノットの速度



ロシア戦艦オスリャービヤ15,000トン

のしか出ないかったが、日本艦隊に攻撃防禦に15ノットを出せたので、全ての行動で先手を打って完勝したのである。もう1つの勝因は水雷艇による魚雷攻撃がある。日本は日清戦争で魚雷の有効性に気づいて、魚雷の研究を進めた。当時魚雷攻撃が出来る国は少なかったし、30ノット出せる水雷艇は接近攻撃で威力があった。この後日本の水雷艇は世界的に有名になった。当時の日本の水雷艇は魚雷攻撃のみならず機雷敷設もやったので、ロシア海軍は水雷艇が通った後の水雷にも気をつけざるを得ず、回避行動で苦慮した。実際にこの機雷で旅順艦隊の名将マカロフ提督が乗る戦艦が撃沈されて、ロシアに衝撃が走ったとされる。もう1つは、帝政ロシアの貴族士官と平民兵士の連係プレーの悪さと、日本の新設された軍隊の戦闘意識の差が有効に働いたのである。

日本が世界の予想を覆し、バルチック艦隊のほとんどを撃沈してロシア海軍を壊滅させた。予想もしなかった結果に列強諸国は驚愕した。そしてトルコ、ポーランド、フィンランドのようにロシアに編入された地域のみならず、白人国家による植民地支配に甘んじていたアジア諸国を熱狂させた。日露戦争は現在でも、有色人種国家が初めて白色人種国家に勝った戦争として語り継がれている記念すべき戦いなのです。この海戦の結果、陸戦のみならず日本側の制海権が確定し、ロシア側も和平に向けて動き出した。

当時のロシア皇帝は日本を「黄色い小猿」と呼んで馬鹿にしていた。その日本人が、まさか戦争を仕掛けてくるとは考えてもいなかったのである。これはロシアのみのことではなく、欧米諸国全ての当時の認識であった。この認識は第2次大戦の真珠湾攻撃まで続いたのである。確かに日露戦争時の戦艦はいずれもヨーロッパ製であった。その黄色い小猿たちが日露戦争からわずか30年後に、巨大な戦艦や空母群、最新の戦闘機を自ら作って真珠湾攻撃をして、アメリカの太平洋艦隊を壊滅されたのであるから、当時のアメリカ大統領やマッカーサーも、相当後まで信じる事が出来なかったようである。

ロシアでは、日本軍に対する相次ぐ敗北と帝政に対する民衆の不満が増大し、国民の間には厭戦気分が蔓延した。さらにバルチック艦隊が壊滅し制海権も失って、戦争継続が困難となっていた。日本はこの勝利でロシアを土壇場まで追い詰めた。しかし、ロシアは戦死2.5千人、捕虜7.9千人に対し日本軍の戦死5.5万人、捕虜1800人と日本が多大の犠牲を払い真に悲惨な戦争であった。日本はこの19ヶ月の戦争に戦費17億円を投入したが、戦費のほとんどは戦時国債による調達で、返済に第1次大戦後までかかった。日本の常備兵力20万人に対し総動員兵力は109万人に達した事や、国内産業の稼働率が低下し経済的に疲弊するなど国力消耗が激しかった。そこでアメリカの仲介で講和提案を受け入れ、日露はアメリカ・ポーツマス近郊で終戦交渉に臨み、1905年9月に講和した。この戦争は東西の戦いとされたが、西洋だったのは実は近代化を果たした日本で、ロシアこそ東側だったとされている。

③ 戦中、戦後の処理

ロシア側の6,000名以上の捕虜の多くが乗艦の沈没により海に投げ出されたが、日本軍の救助活動により救命された。また対馬や日本海沿岸に流れ着いたものも多く、各地の住民に保護された。東郷元帥がイギリスに7年間留学していたこともあり、日本は戦時国際法に忠実で、国際社会に日本は文明国であるとアピールするためにも戦時法遵守が末端の水兵にまで徹底されていた。ロシア兵捕虜は日本国民が戦時財政下の困窮に耐える中で、十分な治療と食事を与えられ健康を回復し帰国した。日本の戦時国際法遵守に、世界各国から賞賛が寄せられた。この戦争において日本軍の乃木將軍は、旅順要塞司令官のステッセルが降伏した際に帯剣を許すなど、武士道精神に則り敗者を非常に紳士的に扱った。日本赤十字も戦争捕虜も人道的に扱い、ロシア兵戦傷者の救済に尽力した。終戦後、日本国

内のロシア兵捕虜はロシア本国へ送還された。しかし、軍法会議での処罰を恐れるロシア士官は日本にとどまることもできたが、熊本県に収容されていたロシア士官は、帰国決定の日に全員自殺している。

負傷し捕虜となったロジェストヴェンスキーは長崎の海軍病院に収容され、東郷の見舞いを受けた。東郷は平服姿で病室に入ると、ロジェストヴェンスキーを見下ろす形にならないよう枕元の椅子にこしかけ、気遣いながらゆっくり話し始めた。この時東郷は付き添い将校が驚くほどに言葉を尽くし、大航海を成功させたにもかかわらず惨敗を喫した敗軍の提督を労った。ロジェストヴェンスキーは「敗れた相手が閣下であったことが、私の最大の慰めです」と述べ、涙を流した。この事はこの戦いまでが、戊申戦争や西南戦争で戦った薩長土肥中心の武士の戦いであった。第2次大戦になると新生軍人の戦いとなったので、孫子の兵法をかなぐり捨てて残虐行為に走ったのは何故か。第2次大戦末期には軍人は国民を守ろうとせず、全ての日本住民を犠牲にしまで戦おうとする、墮落した軍人になったのはどうしてか、大いなる疑問である。

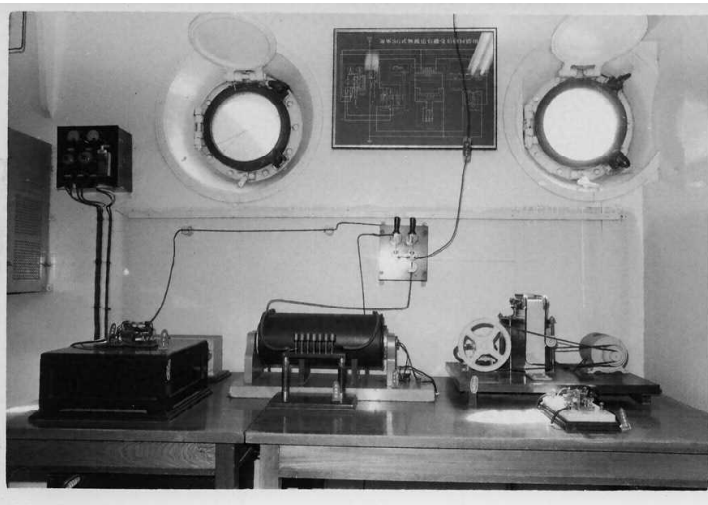
6. 日露戦争当時、日本の新技術

* 伊集院信管

当時の徹甲弾では威力が小さく、敵艦の装甲を貫通できないことが多かった。榴弾も信管に問題があり、敵艦に命中しても爆発しない事もあった。連合艦隊は榴弾による艦上部の破壊を狙い、信管に伊集院五郎少将の開発した信管を採用した。ロシアの砲弾は徹甲弾なので爆発せず煙突などに当たると突き抜けて海中に落下した。しかし、日本の砲弾は瞬発式で、ロープに当たってもその場で破裂したと言われるほど鋭敏に起爆し、下瀬火薬の高温で火の海にしたのである。バルチック艦隊は下瀬火薬の豪雨を浴びせたことが、ワンサイドゲームの一因とされる。ただし、伊集院信管はあまりに鋭敏なため、臆発事故の原因と疑われることもあった。「臆発」とは、連続射撃をした砲身が赤熱して、砲身内で爆発する事故である。日本海海戦でも「三笠」、「日進」、「オリョール」で臆発が発生した。現在ではこの臆発は伊集院信管が原因ではなく、砲弾に炸薬を溶填したさい気泡を取り除く技術が不完全なためホットスポットが出来安く、発射した衝撃で爆発したと考えられている。

* 下瀬火薬

連合艦隊は砲弾の炸薬に下瀬火薬を導入した。当時炸薬の主流であった黒色火薬より爆速が速く、ロシア艦の構造物を粉々に破壊した。下瀬火薬の爆速は、現在のTNT火薬の爆速 6,900m/秒を上回る 7,350m/秒であり、日露戦後、日本に謎の下瀬火薬ありと諸外国から恐れられた。さらに下瀬火薬はその高熱によってペンキなどを燃やし、甲板を火の海にした。想像を絶する砲弾の威力に、バルチック艦隊の司令塔内にいた者は一人残らず震えあがり、司令塔内から逃げる者もいたと伝えられている。当時の火薬技術は国家機密でその詳細を入手することは困難であり、ピクリン酸系の下瀬火薬は下瀬自身が独自の開発したと主張している。ヨーロッパではこの系統の火薬は高感度と毒性を嫌って使用されなかったが、日本では砲弾の威力を優先した。下瀬は実験の爆発事故で重傷を負いながらも研究を行



36式無線機

い、弾体の内部に漆を塗ると鉄との反応を防げることを発見し、砲弾を完成させた。

* 三六式無線電信機

この無線機は、10年間イギリスに留学していた伊集院五郎少将が、イギリスから得た情報を元に木村駿吉博士が完成したものです。当時はまだ真空管が発明されてなかったため、コイル増幅で600wの出力を出し到達距離1000kmとされています。さらに島津源蔵が日本初の鉛蓄電池の開発に成功したので、船舶に搭載可能となりました。そしてこの無線機を秋山真之参謀がトップに上申し、1903年に連合艦隊に採用され、日本海海戦で活躍したのです。

当時、無線電信技術はマルコーニが1894年頃に発明したばかりだったが、日本海軍はいち早くこの重要性に着目し、世界トップレベルの通信機を

整備した。この無線機から信濃丸によるバルチック艦隊発見の報告や、戦闘中の各艦の情報交換に活用され戦況を有利に導いた。この無線機は安中電機製作所(現アンリツ)の製品で、蓄電池は島津製作所の製品で、継電器はイギリス製であった。一方、ロシア側ではマルコーニとほぼ同時期にアレクサンドル・ポポフが無線電信を発明していたが、海軍上層部が先見性に欠けていたために普及が遅れていた。この無線電信の分野でも日露両国は明暗を分けることとなった。

★ 雑がき

⑨……平尾

1. 変なアリアを聞きちゃった

夏前の日曜日、グリーンパークの寄り道してY岡邸によりました。そしてホーンスピーカーシステムを構築中とのことで、テストと称して様々な曲を聴きました。そして、その最後の方にトカスのアリア「歌に生き恋いに生き」を何人かの歌手のをちがえて聞かされました。トップは何度聞いてもイイとは思えないカラスの絶唱と言われる有名な盤、そして何人か後に「この歌はどう」と聞かされたのが、オクターブ程低い声の歌手でした。随分と癖のある歌い方ですが、なかなか上手いのです。再度「誰だか解る」と言われて、はっと思い至った声は何とひばりでした。癖は多々ありますが何とも「上手い」のです。ひばりは楽譜も読めませんが音感は素晴らしいものがあります。聞いた話ですがN響と初めて共演した時、楽員がなめて雑な演奏をしたらしいのです。その時ひばりに、楽団員のヴァイオリン調弦ミスを指摘されて、びっくりしてその後は気合いを入れて演奏したと聞きます。それ程、彼女の耳は凄いらしいです。

帰宅して、インターネットで調べると「ひばりのトカス」は有名なようで、幾つかのブログでヤヤ音は悪いですが、彼女のアリアが聞けます。このアリアは1986年「題名のない音楽会」で歌ったらしく、それを2008年テレビ朝日が再放送したものが有名になった様です。ひばりは1989年に亡くなっていますから、素晴らしいものを記念に残してくれたのです。このCDを買おうとは思いませんが、一聴の価値があります。

ひばり嫌いには身体に悪いかも知れませんが、偏見を捨てて、ぜひ、ご一聴あれ。

2. ジバンニ・ボッテジーニのコントラバス・ソナタ「エレジー」

NHK・FMでめずらしい曲を聞いた。ジバンニ・ボッテジーニのコントラバス・ソナタ「エレジー」である。

演奏は日本人の白井菜々子で、難曲らしいがバスとピアノの掛け合いも見事な曲で、演奏も素晴らしく聞き惚れてしまった。ほとんどの音域はチェロなので、高域の音を出すには、ほとんど弦の根元を押さえるので、凄く力が要るとボジショニングがもの凄く難しい曲だ。インターネットで調べたがまだCDはないらしい。他にボッテジーニのはコントラバス協奏曲もあるらしく、日本でもこれから注目されるものと確信する。そもそも、コントラバスの曲なんて絶対数が少ないし、ましてオーケストラの演奏会でプログラムに載ることも滅多にない。最近、彼女が演奏したボッテジーニの「コントラバス協奏曲 第2番」は15分強ほどのコンパクトな曲で3楽章形式、第1楽章後半には超絶技巧のカデンツァがあり、第2楽章の緩徐楽章は美しい旋律が歌うらしい。ボッテジーニは1821年の生まれのイタリア人で、「コントラバスのパガニーニ」と呼ばれただけあって、技巧の難易度が高だけでなく、イタリア風の大らかな旋律が美しい。

そもそもソロのコントラバス奏者そのものがめずらしいし、白井菜々子は1990年生まれで、現在ウイーンで勉強中らしく、現在世界で注目の人らしい。こうなるとボッテジーニのCDを何とかして手に入れたいと思うが、現在誰もCDを出していないらしい。が、あったら教えて下さい。